



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.1

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 大学院連合メンタルヘルスセンターでの学外実習



大阪市にあるエル・おおさか(大阪府立労働センター)にて、特定非営利活動法人**大学院連合メンタルヘルスセンター(MHC)**の学外実習を行いました。

大学院連合メンタルヘルスセンターが設立された目的は2つあります。1つ目は、**労働者ならびにその家族の福祉の増進に寄与すること**。もう1つは、**このための教育・研修事業と学術振興に注力すること**です。

具体的な業務内容の一つとして、**相談業務**があります。大学院連合メンタルヘルスセンターと契約した事業所は、大学院連合メンタルヘルスセンター所属の相談員によって、労働者対象にカウンセリングが行われています。他にも、事業所に対し、**ストレスチェックの集計と集団分析結果の報告**も実施しています。

また、大学院連合メンタルヘルスセンターは、メンタルヘルスに対する実用性ある支援を行う臨床心理士・公認心理師等の育成及び支援のため、大学院生と学部生を対象に、**産業系実習の受け入れ**も行っています。神戸女学院大学は、実習受け入れ大学のうちの1つです。

## 実習指導者の先生のお話

ご講義では、労働・産業現場について非常に幅広い内容のお話を聞くことができました。

「過労死」という言葉が生まれてから41年経ちますが、依然として過労死の問題は大きく改善されていません。そこで、過労死の真の原因として考えられる、「**主人公化**」心理という概念を学びました。

主人公化心理とは、精神的な拠り所を失い、自立的存在にならざるを得ない事態に追

い込まれ、自分を前面に押し出さざるを得なくなった心理・精神的働きを指します。現代労働者の心理構造の一因として、現代労働者が主人公化心理を有していることが挙げられます。例えば、新型うつ病の症状も主人公化心理の特徴と一致しています。

最後には質疑応答の時間を設けていただき、会社の上司との具体的な連携の仕方についての質問に答えてくださいました。ご回答から、**普**

**から現場を観察し、労働現場の人間関係についてよく知っておくことが大切である**ということを学びました。

お話の中で、昔から現在に至るまで労働の形態は変化してきたこと、これからは多くの仕事がAI等に置き換わっていく可能性があるということをお聞きしました。これからの変化の中で、産業メンタルヘルス問題はどのように変遷していくのだろうかと関心を持ちました。



社会福祉法人こはる福祉会が経営されている こはる苑は、知的な障害のある人たちと、彼らを支える人たちが、共に楽しく働き学ぶ場です。そのこはる苑のメンバーが働く場所が、路地カフェです。障害のある人の憩える場、そして健常者も高齢者も子供も落ち着ける場を目指しています。

一般就職が難しい障害のある方が、福祉施策のもとで就労の場の提供を受けて就労することを福祉的就労といいます。福祉的就労には2種類あります。

雇用契約を締結し、労働者としてみなされ、賃金が支払われる就労継続支援A型と、雇用契約をせず、就労や生産活動機会を提供して工賃が支払われる就労継続支援B型です。路地カフェは、後者のB型就労に当てはまります。

路地カフェでの仕事内容として、料理を運ぶこと、皿洗い、野菜の皮剥き、お菓子作りなどがあります。私たちは、菓子工房を覗いて、お菓子作りの作業を見学させていただきました。アットホームな雰囲気でした。

## 施設について

エル・おおさかにてご講義いただいた後、こはる苑・路地カフェに移動し、路地カフェの中の様子を見学させていただきました。

路地カフェは名前の通り、ビルの隙間の路地の奥に位置しています。私は路地カフェを一目見て、隠れ家みたいだという印象を受けました。その印象は路地カフェの狙い通りでした。路地カフェの前身は金属系工場だったのですが、建築家の

竹山通明氏によって、隠れ家をコンセプトに改修されたということです。

路地カフェの中に入って真っ先に見えるのは、手芸作品や書道作品などの展示物です。路地カフェは「カフェ&ギャラリー」とのことで、ギャラリースペースも広く、壁際には様々な作品が展示されています。カフェスペースもゆったりとした間取りで、25席あるとは思えないほどでした。もっとも印象に残っ



ているのは、天井を見上げると、天窗が見えたことです。当日は晴天だったので、天窗から日差しが差し込んでおり、それがカフェ全体にあたたかい雰囲気をもたらしているように感じました。



## 編集後記

大変お忙しい中、ご講義いただきました。大学院連合メンタルヘルスセンターの三戸秀樹先生、そして店内の様子及びお菓子作りの作業を見学させていただきました。心より感謝申し上げます。

作成：芹沢  
写真撮影：三浦

2023年5月2日(火)



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.2

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」Aクラス

## 神戸アドベンチスト病院での学外実習



神戸市北区にある神戸アドベンチスト病院にて学外実習を行いました。神戸アドベンチスト病院は、「キリストの愛と確かな医療をもって心と体のいやしをめざします」という理念のもと、身体的な癒しだけではなく、心や魂の痛みに触れ人間全体の癒しを目指す**全人的医療**の提供を行っている病院です。1972年には急性期病院として厚生労働省の認可を受け、1992年には兵庫県初のホスピス病棟が開設されました。

また、全人的医療の一環として、専任の牧師が在籍しており、入院中の患者さんやそのご家族の心のサポートをされています。ホスピス病棟では、病気の根本的な治療を行わず、医療的措置によって肉体的な苦痛を和らげ、ご本人やご家族の精神的な不安を取り除き、最後の時を「もっともその人らしく」過ごせるように援助されています。援助には徹底的な優しさを持って患者さんの孤独に寄り添い、生きる意味を支えるケアをされています。

## 山形謙二名誉院長のお話

ホスピス病棟での終末ケアにおける**スピリチュアルケア**について、名誉院長である山形先生にご講義していただきました。

スピリチュアルケアとは、その人らしさを支えるケアを指します。その人らしさを支えるためにはまず疼痛治療から始まります。身体的苦痛が解消されて初めて、身体以外のことにも目を向けることができるからです。身体的苦痛が解消されたら次は、

患者さんの生きる意味を支えるケアを行います。生きる意味を支える価値として、創造価値、体験価値、態度価値の3つの価値があり、ホスピスでは特に**体験価値と態度価値**が重要であることを学びました。孤独と戦う患者さんにとって、体験価値と態度価値の実現は、死を目前にしても幸福な気持ちを持つことができ、生きる価値に繋がります。



の見学もさせていただきました。患者さんと山形先生と看護師の方の目線の高さが一緒になるようにし、ゆったりとした話し方で患者さんに接しておられました。回診は、約2時間程かけてホスピスの患者さん全員を回られているそうです。

## 施設について

ホスピス病棟では、ご家族が料理をされるキッチンや一緒に食事を取る場所、団らんをするためのラウンジがあります。絵画等の作品が飾られており、展示されている物の中には、季節を感じることでできる物もありました。これは、外に出ることができない患者さんに季節感を味わってもらうために用意されたもので、中にはスタッフの方の手作りもありました。回診



山形先生に続いて牧師の吉田先生に**ディグニティセラピー**についてご講義していただきました。ディグニティセラピーは、人生を振り返るような9つの質問を患者さんに語ってもらい、人生の意味をみつめる作業になります。患者さんの語りは、吉田先生によって手紙という形で文書化され、ご家族やご友人にもお渡しすることができます。手紙を作り上げていく中で、患者さんの中で言葉だけではなく思い起こされる出来事や、揺れ動く感情が癒しを生み出すということを知ることができました。

続いて看護師の森本先生、西本先生に看護師の視点からのケアについてご講義していただきました。患者さんの看護には、**尊厳**を守り、大切にしようとする気遣いや配慮ができることを目標とされています。ケアを行う際には、価値観や大事にしてきたことに注目することを教えていただきました。また、ご本人の希望を確認し、それを医師、看護師、牧師、薬剤師、理学療法士、栄養士のチーム全員で支えていくことが患者さんのケアをする上で大事だと学ぶことができました。

2023年5月23日(火)

作成：蔭山  
写真撮影：松本

大変お忙しい中、ご講義いただきました。神戸アドベンチスト病院の山形先生、吉田先生、森本先生、西本先生、また、回診の見学を許可していただきました患者様の皆様に、心より感謝申し上げます。



編集後記



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.3

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」Bクラス

## 奈良女子大学附属中等教育学校での学外実習



奈良市にある**奈良女子大学附属中等教育学校**で学外実習を行いました。

奈良女子大学附属中等教育学校は、1973年から6年一貫教育を実施しており2004年に国立大学法人奈良女子大学附属中等教育学校に移行となりました。

基本理念は「自由・自主・自立」です。これらの精神を背景に形作られた校風により、これまでに数多くの個性的人材を輩出しています。

生徒数は1クラス40名(男子20名、女子20名)、1学年3クラス(120名)、6学年(720名)です。

6年一貫カリキュラムのため、1~6年生という呼び方をしています。

また、2005年度より、文部科学省から**スーパーサイエンスハイスクール(SSH)**に指定されています。2020年度から2024年度までの第4期では「科学技術イノベーションにより未来社会を創出する『飛躍知』を育むカリキュラム開発」をテーマとしています。

## 実習指導者の先生のお話

ご講義では、スクールカウンセラー(SC)について、①SCのシステムと活動内容、②1日の具体的な活動内容、③SCとしての留意点、についてお話をお聞きしました。

SCとして求められることが、個人面接が出来ることから、**コンサルテーションやケース会議ができること**に変わってきているということを知りました。子ども・保護者・学校が抱える様々な問題に対

し、SCは心理支援職として、“個”を尊重することを基本の姿勢としつつも、その応用として**チーム学校の一員として活動していること**も学びました。

例えば、ケース会議に参加し、教員ら(ときには他機関他職種の専門家たち)と情報共有し、手立てを具体的に考えると聞き、自分の言動に対し、なぜそうしたのか説明できることも、SCには求められていると感じました。



良原先生から、小学校・中学校・高校でのSCの1日の流れを教えてくださいました。1日のスケジュールを具体的に聞いたことで、SCとして気を付けることや、限界があるということを知りました。

その中で、昼休みの20分だけで面談をしている時があり、それを見て、こんな短時間で話ができるのだろうかと思いに思いました。すると、良原先生が内申点に影響しないように生徒と相談した上で、この時間で面談をしていると補足で説明をしてくださりました。それを聞いて、ほとんどの生徒は学校に勉強をしに来ているということに改めて気づきました。カウンセリングルームは誰でも利用できる場所だと学んでいたにも関わらず、事前指導で、学校での問題について不登校やいじめを主に調べており、その印象が強かったせいか、教室に入ることが難しい生徒だけが利用すると勝手にイメージを持ってしまっていたことに気付かされました。

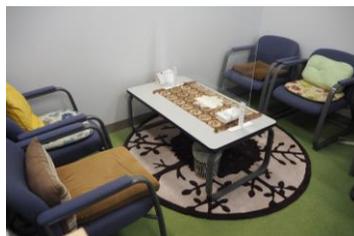
そして、SCは利益になるように働かないといけないというのは、こういったところであると感じました。

## 施設について

実習指導者の良原先生の説明を受けながら、学校内の様々な場所を見学させていただきました。

**校内適応指導教室**はカーテンで区切られた空間がいくつかあり、中には机と椅子がありました。保健室や生活指導室にも、囲いのある空間がありました。他にもライブラリーや準備室で1人の時間を過ごす生徒もいるそうです。

また、**カウンセリングルーム**では、



キャラクターものは刺激となるため控えているという工夫を知りました。

校内の様々なところで1人になれる一方で、単位取得の問題もあるため、先生方は誰かどこにいるのかを把握することに気を遣っているとのことでした。



編集後記

作成：草野  
写真撮影：丁ヶ阪

この度は、お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。  
吉田校長先生、良原先生、奈良女子大学附属中等教育学校の皆様により感謝申し上げます。

2023年6月13日(火)



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.4

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」Aクラス

## 武庫愛の園幼稚園での学外実習



尼崎市にある認定こども園武庫愛の園幼稚園にて学外実習を行いました。

武庫愛の園幼稚園は建学の精神から「以愛為園(愛をもって園となす)」とし、愛の園幼稚園と命名、そして「**より良い社会と 幸福な人生の創り手となるしなやかな子どもを育てる**」を教育目標としている幼稚園です。

第二次世界大戦で焦土化した尼崎市からの要請により、「復興は教育、特に幼児教育に有り」という信念から、難波

愛の園幼稚園、続いて、姉妹園の立花愛の園幼稚園、その後武庫愛の園幼稚園が設立されました。武庫愛の園幼稚園には、1歳児から5歳児までの子ども達が在籍しています。園の先生方は、子ども達が遊びや生活の中で**主体的に生きることや、友だちを価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働することなどを教育方針として子ども達の成長を時には見守り、時にはサポート**されているようです。

## 濱名潔先生と福谷先生のお話

濱名先生から、「ゲームをしましょう。」ということで、保育に関するクイズを体験しました。まさか実習の最初にゲームをするとは思いませんでしたので驚きましたが、ゲーム後の「**遊びを通して学ぶ**という1つの体験をしていただいた。」という先生のお言葉から、幼稚園教育の核心に触れた気がしました。思い切り楽しめている中で、自分の知らないうちに学ぶことが出来ている経験を大人になって体

験できました。とても貴重な時間でした。

また、福谷先生から子ども**一人一人と向き合う**ことが大切であることも学びました。集団を意識することよりも、1対1でしっかり向き合うことで子どもは、大人がちゃんと自分を見てくれていると安心し、その安心から子ども達全体に声をかけたときに話を聴いてくれるなどして、力を発揮します。



保育には**地域との関わり**が重要であることも学びました。子ども達が、朝から夕方まで過ごしている幼稚園で、ご近所との騒音トラブルなどに発展しないようにするには、**地域の皆さんの理解や協力が必要不可欠**になってきます。近年では新型コロナウイルスの影響で、地域、特にご高齢の方々とは関わりが薄くなっているようですが、以前は子ども達が地域のお店の見学に行ったり、敬老参観のようなものが行われていたようです。

保育における心理職のニーズについてもお話していただきました。保育者によってニーズは様々ですが、**第三者的視点**から保育を見つめることは、保育者にとって新たな視点になり「気づき」に繋がります。保育のプロである先生方が、頭では理解していても上手くいかなかったり、プライドが邪魔をして相談できなかったりしたときに、心理職と一緒に考えたり、気付きやキッカケを与えたりすることが助けになるのではないかと考えました。**何を意識してどう関わっていくのかを私たちは考える必要がある**と思います。

## ① 施設について

実際に子どもたちが園内で過ごしている様子を見学させていただきました。2歳児の部屋を見学した際には、わらべうたを歌っていました。皆の輪に入っていない子が何人かおり、先生方はそのことを否定するのではなく、**受け入れる姿勢、待ちの姿勢、見守る姿勢**を徹底し、とても暖かい空気でした。わらべうたの力もあって、そのような子ども名前を呼ばれるとその場で反応できていました。このような肯定的な**環境**や



**経験が子どもの成長に大切**であることを学びました。3歳児の部屋では、自由遊びを行っていて、友だちと遊ぶ環境づくりのためにあえて**3つの遊び**に絞っているという工夫がみられました。5歳児や4歳児の部屋では、子どもたちが**自ら考えられるような声掛け**の工夫が先生方からみられました。

作成：三浦  
写真撮影：岡松

大変お忙しい中、ご講義いただきました武庫愛の園幼稚園の濱名先生、福谷先生、また、園見学の際に快く迎え入れてくださった先生方、園児の皆さんに心より感謝申し上げます。



### 編集後記

2023年6月13日(火)



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.5

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 立花愛の園幼稚園での学外実習



認定こども園立花愛の園幼稚園の学外実習を行いました。

立花愛の園幼稚園は幼稚園型の認定こども園であり、1歳児～5歳児の子どもたちの教育と保育を行っています。「よりよい社会と幸福な人生の創り手となるしなやかな子どもを育てる」ことを教育目標としています。教育では、子ども一人ひとりが自らやりたいことをみつけ、自主性・自発性を育てていく「子ども自身が自由に選んで行う活動」と、

その時期や子どもの姿に応じて必ず身に着けたい技能や能力や習慣などを育み豊かな情操を高める「教師が意図的に経験させる活動」の2つの側面から捉えています。

立花愛の園幼稚園にはキンダーカウンセラーの先生がいて、子育てに関する悩みや保護者自身が抱える悩みなど、保護者の方のカウンセリングを行っています。他にも、受け持つ担任の先生の支援もしています。

## 実習施設の先生のお話

ご講義では、保育の中での幼児や保護者への心理面での支援や保育における「見守り」について学ぶことが出来ました。

幼児への支援は、見守りながら「活動を容易にするためにささえ助けること」であり、環境構成や子ども同士の関係づくり、言葉かけなど、様々な方向から子どものことを考え、支援していることを学びました。保護者への支援では、子どもが荒れて

いる場合、母親自身が問題を抱えている場合もあるという話があり、先生方は家庭環境や親子関係など、見えない部分まで子どものことを深く考えていると知りました。

更に見守りについて、すぐに助けるのではなく、敢えて援助せず子ども自身で乗り越えることが大切だと学びました。



保育における「見守り」について、保育では子どもの「できない」経験も大切にしており、その経験がいかに子どもにとって意味のある経験にするかということが大切だと学びました。

何かトラブルがあった時や上手くできない時など、保育者は、すぐに助けず、意図的に子どもを援助せずに見守ります。それらの困難の中で、子どもが試行錯誤し、自分で乗り越える経験や自分でできた達成感を味わえる経験が大切です。

例えば、何かを製作する際に作り方が分からず先生に頼ってきた場合、先生は正解を教えるのではなく、子どもが自分で周りを観察し、自分なりに答えを見つけ出せるような環境をつくります。これは、観察する力や乗り越える力を身に付け、達成感を味わうことができ、成長に繋がります。

他にも、子ども同士でトラブルが起きた時、すぐに声をかけるのではなく、相手に自分の意見を伝える力や自分たちで解決できる力を身に付けられるような支援が重要だと学ぶことが出来ました。

## 施設について

施設内見学をするなかで、園児や先生方の最高の笑顔と明るく元気な声が印象的で活気にあふれていたことや、子どもが自らみつけた遊びをサポートしている様子を見て、愛のあふれた素敵な環境だと感じました。

あるクラスで、立花愛の園幼稚園が大切にしている、「おまめ」のわらべうたを行っている様子を見学させていただきました。



この活動では、順番に園児の名前を呼び、呼ばれると「ポーン！」とジャンプをしながら座ることで、園児全員が注目される場を設けていると教えていただきました。他にもありさんや、おもちゃの歌を皆で仲良く歌う様子が見られました。

作成：武部  
写真撮影：西坂

この度は、大変お忙しい中、貴重な体験をさせてください誠にありがとうございました。保育について、深い部分を知ることができ、嬉しく思います。立花愛の園幼稚園の皆様は、心より感謝申し上げます。



編集後記

2023年5月23日(火)



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.6

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 大阪大学医学部附属病院での学外実習



吹田市にある大阪大学医学部附属病院にて学外実習を行いました。

子どものこころの診療センターは、小児科、神経科・精神科、産科などの医師と心理師が協働して、発達障害の診療や睡眠外来を行っています。具体的には18歳以下の小児・青年を対象としており、疾患についての診断のみならず、精密な評価や指導を行います。

各専門性を生かして、発達や心理面、脳機能の評価、心理教育、精神治療、投薬治療を行っており、必要に応じて

学校や地域との連携を積極的に図っています。

また、発達障害の子どもを養育する上での育児の困難さや母親の不安に対してのサポートも行っています。

様々な事例を担当する際、心理師同士で相談しあったり、カンファレンスを行ったりして、一人で解決しようとするのではなく多職種と連携することの重要性を改めて知ることができました。

## 山本先生、森先生のお話

山本先生によるご講義では、心理師の主な仕事や発達外来の流れ、自閉症診断のために使用する検査道具(ADOS)などに関するお話を聞くことができました。

発達外来では、医師は初回と最終の診察を担当し、心理師は検査とフィードバックを担当しています。このように、はっきりと担当箇所が分かれているため心理師と医師の連携は必須であると感じました。

また、心理師は検査の結果と方針を保護者にフィードバックする際に、困りごとへの対応やアドバイスシートを活用して、環境づくりのコツを伝えていきます。

例えば、遊ぶ場所にマットを置くことで「ここは遊ぶ場所なんだ」と子どもは理解し、安心して遊ぶことができます。そして遊ぶ際のルールを確認することも重要であると学ぶことができました。



ADOS (Autism Diagnostic Observation Schedule) という、自閉症診断のために使用する検査道具を実際に見させていただきました。おもちゃや絵本を通していろいろな働きかけをして、子どもの反応を見たり、子どもからの働きかけを見たりする検査です。例えば、子どもの要求の出し方が言葉であるか、行動であるかなどを観察します。どんな要求をしているのか把握することで親の理解、そして療育にもつながります。しかし、完全に構造化された検査ではないため、検査者の技量が必要であると感じました。

質疑・応答の時間では、心理師及びPSWの森愛実先生にも加わっていただき、様々な質問に丁寧にお答えいただきました。

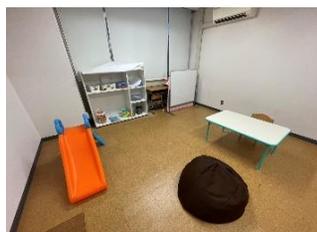
生活指導をする際は、共有したり、家庭で思い出せたりするようにワークブックを用意して取り組みやすくする工夫をされていました。

また、大学病院で働く心理師は、研究と臨床を共に行うため、研究から得られた経験や知識をもとに先進的な臨床活動が行えるという利点を学ぶことができました。

## 施設について

検査や療育を行うお部屋を見せていただきました。コンセントにカバーをつけるなどして、子どもが気になりそうなものをできるだけ排除しているシンプルなお部屋でした。室内の床が少し柔らかくなっており、子どもへの配慮であると感じました。

遊びの中で他者への要求や言葉の繰り返し、ごっこ遊びの練習をすることで子どもの発達を促して、社会性などを育てています。



また、親子で家庭でも取り組めるように説明をしながら実施したり、ステップシートを用いて保護者の方と共有しながら、決めた目標を達成できているか毎回評価をしたりしています。



## 編集後記

作成：本坊  
写真撮影：竹内

大変お忙しい中、ご講義いただきました。ご所属の大阪大学医学部附属病院の山本知加先生、森愛実先生に心より感謝申し上げます。

2023年8月4日(金)



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.7

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 兵庫医科大学病院での学外実習

西宮市にある**兵庫医科大学病院**で学外実習を行いました。

兵庫医科大学病院は1972年に開設され、阪神地区の基幹病院として重要な機能を果たしています。安全で質の高い医療を行い、地域社会へ貢献するとともに、よき医療人を育成することを理念として掲げられています。

病床数963床、職員数2665人、診療科41科の国指定の特定機能病院であり、先端医療やがん医療、チーム

医療、救急・災害医療に取り組んでいるという特色があります。

病院内には**臨床心理部**があり、主に心理相談(カウンセリング・認知行動療法等)や心理検査、チーム医療、地域の医療機関との連携等が行われています。他にも、移植医療や遺伝子医療の際の意思確認や心理チェック、DPAT、医学生への講義、公認心理師実習など様々な業務に携わっています。



## 実習指導者の先生のお話

吉田賀一先生から、大学病院の公認心理師に求められること、についてのお話をお聞きしました。大学病院の公認心理師は、**専門職である前に医療従事者であり、医療従事者であると共に組織人**です。予約対応や電話対応などの事務仕事も求められます。

さらに、チーム医療での役割としては、**短いスパンでの対応やチーム内で足並みを揃えること**を求められます。チーム内の

ケアも大切であり、特に看護師さんは患者さんとの関りが多くなるため、サポートが大切であると知りました。

心理師自身については、**自分一人で抱えこまずに報連相を行うこと、相談できる相手を作ることが大切**であると教わりました。日頃から信頼関係を築き、自分ができることを自分から示すことが重要であると学ぶことができました。



見学の中では、心理検査の際のテストバッテリーの組み方も学ばせていただきました。また、患者さんのプレゼンを聞かせていただき、貴重な機会も設けていただきました。

吉田先生は、患者さんの害にならないこと、患者さんが納得しているかどうかを普段一番注意していると仰っていました。一方的に医療を押し付けてしまうのではなく、患者さんのことを一番に考えつつ、心理師のことも守ることが重要なのだと思いました。

そして、チーム医療の中では、**専門領域を尊重することも大切**であるという話をお聞きしました。専門性が重要な職種であると理解していましたが、病院でチームとして働くとなると、擦り合わせることも大切なのだ気付きました。チーム医療では、チームの中の心理師という立場を認識することも必要なのではないかと思います。

**心理師は必要とされている職**である、という言葉も印象に残っています。求められることも多く、とても大変な仕事だと感じましたが、同時に重要視されている大切な職種であるのだと改めて感じる事ができました。

## 施設について

吉田先生の説明を受けながら、病院内の見学をさせていただきました。

**面接室**では、話に集中できるように、置く物を最低限にしたり、安心して座ることのできる大きめの椅子を使っていたりと、クライアントに対する細かな気遣いを知ることができました。

**精神科病棟や保護室**は、中は一般病棟と同じ作りをしていましたが、



出入り口に鍵が掛けられていました。これは、本人の意図しないことを避け、守るために使われているものだと教わりました。他にも床や壁が柔らかくなっていたりと、法律に則り、人権を守りながら、患者さんに向き合う施設が整えられていました。



編集後記

この度は、大変お忙しい中、貴重な体験をさせてもらいました。誠にありがとうございました。ご講義いただきました。兵庫医科大学病院様へ心より感謝申し上げます。

写真撮影：松井 作成：岡部

2023年8月23日(水)



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.8

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 神戸少年鑑別所での学外実習



神戸市にある神戸少年鑑別所(神戸法務少年支援センター)で学外実習を行いました。

少年鑑別所は、法務省矯正局が所管する国の施設で、**①鑑別**、**②観護処遇**、**③地域援助**を主な業務としています。主に家庭裁判所で観護措置を執られた少年を収容しており、観護措置の期間は多くの場合、審判を迎えるまで計4週間程度とされています。

また、神戸少年鑑別所は「**神戸法務少年支援センター**」として地域援助にも力を入れています。非行・犯罪の防止に関する専門的な知識や技術を幅広く活用して、一般の方々や関係機関・団体からの依頼に応じ、地域社会における非行及び犯罪の防止に向けた様々な活動を行っています。

## 実習指導者の先生のお話

吉岡先生から、司法・犯罪分野で働く心理職と少年鑑別所との連携例、また少年鑑別所の業務について詳しく教えていただきました。少年鑑別所では**法務教官**、**法務技官(心理)**、**医官**などがチームで連携し、他施設とは**家庭裁判所調査官**や**保護観察官**などと多職種連携して少年と関わります。その中でも心理面から少年をアセスメントする法務技官について詳しく教えていただきました。

少年たちは全員が納得して少年鑑別所に入所するわけではありません。それぞれ非行に至った経緯や背景、考えが異なります。法務技官は**少年が落ち着いた気持ちで審判を受けることが出来るようにすることが1番大事な仕事**であると知りました。怖がらせるのではなく、不安な気持ちを取り除くことが大切だと話されていました。



吉岡先生にご用意していただいた架空ケースを使って、グループで空事例検討も行いました。各グループで**①面接や情報収集で押さえないポイント**、**②心理検査は何をするか**、**③鑑別判定と処遇方針**、について話し合い、考えを共有しました。吉岡先生は、私たちの意見を聞いて、**特定の意見が正解というわけではなく、少年それぞれに合った対応を考えることが大事**であることを教えてくださいました。

また、講義の最後に法務技官として働くやりがいについても知ることが出来ました。法務技官は、まれな臨床心理ケースを担当できたり、少年が変化していく様子を間近で見ることが出来るなど、司法・犯罪分野ならではの魅力があると思いました。

吉岡先生のお話から、少年の心に寄り添い、将来に対する不安や恐怖を聞き取って安心してもらうことの重要性を強く感じました。少年鑑別所に対して少し怖いイメージがありましたが、実習を通じて少年に真摯に向き合う施設であると知ることが出来ました。

## 施設について

入所中の少年は規則正しい生活を送ります。その中には運動する時間や自由時間もあるとのことでした。実際に運動場や静かに本を読む部屋、個人が就寝する部屋を見学しました。国民的に流行している漫画が揃っていたり、個人部屋では制限付きではあるもののテレビ観賞ができるようでした。また、施設内では男女が接触しないように生活空間が分けられていました。



施設内には少年が安全に過ごせるような工夫がされていました。例えば、鏡を使って職員の方々が少年の行動を把握しやすくなり、けがやトラブルを防ぐために階段の手すりの上にネットが貼られていました。



編集後記

この度は、お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。実習を通じて少年の安全や人権が守られることを肌で感じることが出来ました。吉岡先生をはじめ、神戸少年鑑別所の皆様にご心より感謝申し上げます。  
写真撮影：松井 作成：小林

2023年8月25日



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.9

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 西宮市立こども未来センターでの学外実習



西宮市にある西宮市立こども未来センターにて学外実習を行いました。

西宮市立こども未来センターは「こども自身の自分らしい豊かな人生の実現」のための支援を行うことを目的とし、**福祉・教育・医療**が連携し、切れ目のない支援を行うことをめざし子供の育ちや発達、学校・幼稚園・保育所での生活などで生じる不安や心配についての相談に応じます。

相談は電話受付に始まり必要に応

じて相談員による面談や継続的な面談、またセンター内の支援につなぐほか、学校園や関係機関との連携も行っていきます。

肢体不自由児通園施設として開設された「西宮市立わかば園」と「西宮市立スクーリングサポートセンター」を移転・統合した施設であり、施設内では医師や看護師をはじめ様々な専門家が在籍しており多職種が連携し共に多角的な視点から課題へ向き合う支援を試みます。

## 実習指導者の先生のお話

こども未来センターでは「わたしたちはこども自身の自分らしい豊かな人生を実現するための支援をめざします」を基本理念に、子ども達が自分の人生の主人公として生きること、社会の中で生きがいをもって暮らすこと、そして学んだことを生かして自分の世界を広げることを目指しています。

そのため、支援は**本人中心の支援**を意識しており、本人や家族の現状や希望の整理、それに伴う課題や方針について支援関係者間での認識の共有を図っています。

施設内には医師や看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理療法士、保育士、相談員など多職種が在籍しており、利用様の承諾を得た上で情報共有し、連携を図ります。



あすなる みらいでは、西宮市立の小中学校において長期間登校できない状況にある子供を対象に、**社会的自立**にむけた支援を行っています。

あすなる みらいの利用日は、月曜日から木曜日です。

その他にも、わかば園では訪問支援事業の展開や、地域の園との**並行通園**も可能であり、親子通園ではあるが親と離れて保育士と遊ぶ場面を観察してもらうため園内の窓をマジックミラーにするなどの工夫を行っていました。

また、電話で相談を受けた際の心構えとしては**二足の理解や相手の気持ちに寄り添う姿勢**の重要性などが挙げられました。

必要に応じて学校園や関係機関とも十分に連携を図っており、一人ひとりに応じた支援を試みていることを学びました。

こうした取り組みをはじめ、西宮市立こども未来センターでは各所で公的機関ならではの**特徴**が多数見受けられました。

## 施設について

施設は、

- ・ 1階：サロン及びわかば園
- ・ 2階：診療部門の総合受付
- ・ 3階：相談室やスヌーズルーム
- ・ 4階：あすなる みらい（教育支援センター）
- ・ 5階：屋上プールとなっていました。



わかば園は、肢体不自由児や知的・発達障害児を対象に保護者の方にも具体的な療育・育児方法を身に付けていただくため**親子通園**での保育を行っています。

作成：瀧谷  
写真撮影：蔭山

大変お忙しい中、ご講義いただき誠にありがとうございました。西宮市立こども未来センターの谷口さま、日野先生はじめ、見学を許可していただき、ありがとうございました。皆さま、利用者者の皆さまに、心より感謝申し上げます。



編集後記

2023年9月1日(金)



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.10

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 榎坂病院での学外実習



吹田市にある医療法人松柏会 榎坂病院で学外実習を行いました。

榎坂病院は昭和40年に設立されて以来、吹田市唯一の精神科病院として、地域との連携を図りながら開かれた精神医療を行っています。現在は外来診療や入院医療、デイケアなどを行っており、入院患者さんの退院支援および外来通院患者さんの日常生活支援において、市役所や地域援助事業所、訪問看護事業所など

と協力しながら患者さんの日々の生活のサポートを行っています。

診療科目は主に精神科と神経科の2つで、2つの病棟に360床の病床が設けられています。榎坂病院で治療を行っている精神疾患のおよそ8割は統合失調症で、その他には気分障害などの治療を行っています。

病院は街中にありながらも木々が生い茂り、静かで穏やかな雰囲気を感じられました。

## 実習指導者の先生のお話

実習指導者の服部先生は、榎坂病院で精神保健福祉士、臨床心理士の資格を持ち、ケースワーカーとして働いておられます。

服部先生から、病院での心理職の役割として①入院患者さんとの関わり、②心理検査の実施、③カウンセリングを挙げてくださいました。

患者さんとは関係性を築きながら

適度に距離を取ること、他職種、他機関との関わりでは役割分担を明確にすることが重要であるというお話を聞くことができました。できることは何でもやるのではなく、患者さんの主体性や取り組めることを奪ってしまわないこと、自分の領域をはっきりとさせることで責任を持って取り組むことの大切さを感じました。

## ① 施設について

服部先生の説明を受けながら、病院内の見学をさせていただきました。

病棟として使われているのは主に1階～3階で、1階には男女混合の開放養病棟、2階は男性の一般病棟、3階は女性の一般病棟となっています。それぞれの病棟で、ピアノを弾いたり、トランプをしたり、看護師さんと談笑していたりと患者さんがのびのびと過ごす様子を

うかがうことができました。日光が中庭に差し込み、明るく心地よい雰囲気が病棟全体で感じられました。中庭に面している方向はどの階もガラス張りになっており、病院の中にも緑を感じることができるような作りになっていました。病院の入り口付近には売店もあり、患者さんが買い物をするだけでなく、金銭管理の練習をするといった形でも使われていました。



服部先生から、「患者さんとの日々の関わりの中で、ふとした瞬間に自分の想いや考えを話されることがあり、それらに耳を傾けることで関係性を作り、今できることやこれからについて探っていく、具体的な支援について考えていく」というお話がありました。一般的な心理相談では1週間に一度といったように決められた間隔をあけて患者さんに会うことが多いですが、この話を聞いて、日常的に患者さんと接することの多い仕事だからこそできる気持ちへの寄り添いや関係性の築き方を知ることができました。

また、デイケアについても見学や講義を通してプログラムの内容・目的など多くの学びを得ることができました。プログラムには運動や創作活動、患者さん自身が計画し実施するものなどたくさんの種類がありました。「デイケアの場も小さな社会であるため、同じような人だけでなく色々な人がいるようにする。社会性や対人関係を身につけるためにもトラブルを事前に避けることはしない」という話に「患者さんのために最もよいこと」という姿勢があらわれていると感じました。

2023年9月5日(火)



編集後記

作成：塚田  
写真撮影：岡部

この度は、大変お忙しい中、貴重な体験をさせてもらいました。誠にありがとうございました。ご講義いただきました。榎坂病院の皆さま、ご感想申し上げます。



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.11

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 神戸真生塾での学外実習



神戸市にある、「神戸真生塾」にて学外実習を行いました。神戸真生塾は、**福祉サービスを必要とする児童と家族**が心身共に健やかに育成され、あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるとともに、地域社会において必要な福祉サービスを総合的に提供されるよう**支援**することを目的として、キリスト教の精神に基づき活動している**社会福祉法人**です。

児童養護施設・乳児院・子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの

家)・幼保連携型認定子ども園・自立援助ホーム・小児科診療所を運営しています。今回は、主に**児童養護施設**についてお話を聞かせていただきました。

「児童養護施設 神戸真生塾」では、様々な理由で家庭や家族を離れて生活する必要がある子どもたちと共に、すべての職員が、**家庭的なホーム**をめざし、両親に代わって愛情と信頼にみちた明るい生活をしながら、**子どもたちの心身の健やかな成長を支援**しています。

## 実習指導者の先生のお話

加藤先生から、児童養護施設における心理士の取り組みについてお聞きしました。

神戸真生塾では、それぞれの児童に合わせた頻度で**個別心理療法**を行っています。対象児童に対して、年に1度**バウムテスト**を行っているというお話が特に印象に残りました。子どもが自身を知る機会になり、様々な言葉を引き出すことができるとおっしゃっていました。

心理士として働くにあたって、子どもの年齢がどれほど低くても、**インテークを丁寧に**行うことや、セラピーで知り得た**情報の取り扱い**を慎重にすること、**独自性を**保持することなどをとても大切にされているそうです。

施設の職員との情報共有によって児童の情報を**知りすぎてしまうがゆえの葛藤**など、お仕事上の難しさに関するお話もとても印象的でした。



上杉施設長から、**児童養護施設に関する現状**についてお話していただきました。

施設は以前の孤児院というイメージから、様々な事情で保護者とともに暮らすことができない子どもが生活する場所へと変化してきました。

その背景として**虐待**があります。日本では3年連続で虐待の相談件数が20万を超え、社会的意識の高まりが感じられます。しかし、相談件数のうち、実際に一時保護の対応がとられている割合はわずか10%ほどです。このことから分かるように、**一般家庭にも危機的状況にいる子どもは多くいます**。そのことを意識する重要性を教えてくださいました。

さらに、施設についてのお話もしていただきました。子どもたちは、各自の希望に合わせて、習い事・部活・アルバイトをすることができるそうです。このようなお話から、**厳しそうだと感じていた、児童養護施設での生活に対する認識が、大きく変わりました**。

実習全体を通して、貴重なお話をたくさん聞かせていただき、大変勉強になりました。

## 施設について

子どもたちが生活している、**児童棟**の中を見学させていただきました。

1つのユニットに2部屋あり、それらを行き来できる位置にスタッフルームがありました。ユニットの入り口にインターホンが設置されていて、私たちの家と同じように**守られた空間**であること、**家庭的な環境**が意識的に作られているということを感じました。部屋の中には、年齢によって観たい番組が違うことへの配慮から、テレビが2台あり、**子ども**



**たちのことを一番に考えているのだ**と感じました。

その他にも、**子ども家庭支援センター**としての役割を果たす本館は、「**地域にオープン**」というコンセプトで作られているため、土足で入館可能であることが、印象に残りました。



編集後記

この度は、お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

上杉施設長、加藤陽子先生をはじめ、神戸真生塾の皆様、心より感謝申し上げます。

作成：松本  
写真撮影：吉川

2023年10月24日



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.12

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 西宮市保健所での学外実習



西宮市保健所にて学外実習を行いました。

保健所は、都道府県、政令指定都市、中核市などに設置された**公的機関**です。

保健所は、**地域住民の健康の保持・増進**を目的とし、健康づくり、結核・感染症対策、難病や精神保健に関する相談・普及啓発、薬事・食品衛生に関する監視指導など、専門性

の高い業務を担っています。そして様々なことに対応できるよう、医師、保健師、事務員、精神保健福祉士、薬剤師、心理士など、多様な職種の方が協働しています。

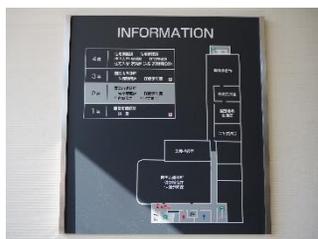
健康増進課・精神保健チームでは、「**自殺対策**」「**こころの健康づくり**」「**ひきこもり支援事業**」など、様々な支援を展開されています。

## ① 施設について

施設内を見学させていただきました。西宮市保健所池田庁舎には、健康増進課、保健予防課、保健総務課、住宅調整課、住宅管理課、住宅入居・家賃課、住宅整備課が設置されていました。

1階にある講堂は、**市民の方に向けた講演会**にも使われています。西宮市保健所では、睡眠に関する講座・ひきこもりの理解についての講座などが開催されています。

「こころのケア相談」では、電話や面接で相談に応じられています。面談室は、落ち着いて相談できる場所で実施しています。



2023年11月14日

## 実習指導者の先生のお話

井戸先生から、**ひきこもり支援**について、お話をお聞きました。

ひきこもりについての相談は、ご本人ではなく、ご家族の方が来られることが多いそうです。そのため、支援内容として、**ご家族の不安を和らげることや、ご家族とご本人の間でコミュニケーションがとれるように助言している**とのことでした。ひきこもり支援は、ご家族の方も悩んでおられるため、ご本人とご家族の、双方に支援が

必要であることがわかりました。

ご講義の中で、斎藤環先生の著書から、「**家族がまず本人が安心できる環境を整え、そのうえで少しずつ、本人が受け入れ可能な範囲で、自立の働きかけを試みる。**」という言葉をご紹介頂きました。ご本人に直接支援ができない状況でも、**ご家族への支援により、気持ちに変化が表れる**ことを知りました。

これまでの実習で、様々な施設を見学させていただきました。その中で、今回伺った保健所は、業務内容の幅が広いことが特徴的であると感じました。西宮市保健所での「こころのケア相談」では、「**どうしたら良いのかわからない**」という相談を受けることがあるそうです。業務内容が幅広い保健所だからこそ、漠然とした悩みを相談できるのかもしれないと思いました。

井戸先生は、「相談しても特に何も変わらなければ、二度と相談しなくなってしまいう可能性もあるため、**相談することにメリットがあると思ってもらえるように心掛けている**」とお話しされていました。このことから、「支援者・サービスにつなげる」だけでなく、「**次の機会につなげる**」ということも重要であると感じました。

今回の実習を通して、私たちは1人ではないと感じました。何か悩んでいる時は、必ず支えてくださる方がいらっしゃると思います。私は、「つながり」には、安心感を与えてくれる力があると思いました。つながりの重要性について、改めて考えるきっかけになりました。

写真撮影：吉川 竹内

西宮市保健所の皆様へ、心より感謝申し上げます。

この度は大変貴重な体験をさせていただきました。ごきげんよう。



編集後記



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.13

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 「心理実習」 3期生の実習報告会を行いました



12月12日に、公認心理師資格関連科目「心理実習」3期生の実習報告会を行いました。

「心理実習」では、年間を通して、**医療、教育、福祉、産業・労働、司法**の5領域にわたる各クラス8か所の学外実習を行っています。今年度は、12施設へ実習に伺いました。

実習報告会では、まず学外実習に伺った12施設について、各実習先につき1名が発表を担当し、11名の実習生が発表しました。実習施設の概要や、施設の社会的役割、心理職の仕事内容、多職種連携、実習生が現場から肌で感じたことや学んだことを報告しました。

## 実習指導者の先生から学んだこと

実習生が「現場」を見て体験し、学んだこととして、現場では、**心理職として新たな視点が求められること**や、多職種と情報共有をする際には、**情報を共有するタイミングやどこまで話すのかを考慮することが重要**であること、また**心に余裕を持つことが大切**であることなどを報告しました。

**守秘義務**があるなかで、**情報共有することの難しさ**など、実習指導者の先生方から学んだことを話しました。

また、現場ならではの貴重な体験ができたこと、現場実習を経てさらに**問題意識**を持ったことについて報告しました。

## 仲間と共に乗り越える

次に、「心理実習」で学んだことについて実習生3名が報告しました。

実習生からは、座学だけではなく、実際の現場を見て、**五感で感じて考えることの大切さ**を学ぶことができたこと、**現場に行くことで学びや理解が何倍にも大きくなる**ということをお話しました。

また、グループ学習では自身の考えを言語化し、**グループで共有すること**でさらに学びが深くなること、それぞれの気持ちや考えを共有することで**仲間を支えられて「心理実習」を乗り越えることができた**など、実習生それぞれが「心理実習」で学び、経験したことを交えながら報告していました。



## 後輩へのメッセージ

最後に、「心理実習」を次年度受講する後輩に対し、実習生3名からは、4月までに準備できること、**自分なりのストレス発散方法を見つけ、完璧主義になりすぎないことが大切**であること、「心理実習」と就活・進学の大変さなどといったエールや助言が送られました。

3期生が体験し、感じた事とともに、**後輩へあたたかいメッセージ**を送りました。



### 交流会

実習報告会後に3期生と下級生との交流会を行いました。

写真撮影：嶋田

2023年12月12日(火)

「心理実習」3期生の実習報告会の詳しい様子は、心理・行動科学科の学生は、Moodleの「資格関連：公認心理師」トピック内でオンデマンド配信しております。興味・関心のある方は、ぜひご覧ください！